

第二百二十四條 假豫審ニ於テハ取證ノ機ヲ失セス且被告人ノ利益ヲ損セサル爲メ先ツ被

告人ヲ訊問スヘシ但檢證及ヒ證人訊問ニ付キ急速ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第二百二十五條 被告人呼出ニ應シ出頭シタル時ハ即時ニ訊問ヲ爲スヘシ遅クトモ其日ヲ

過クヘカラス

被告人呼出ニ應セサル時ハ再度ノ呼出ヲ爲シ又ハ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スヲ得

又時宜ニヨリ被告人ヲ呼出スヲ直ニ其所在ニ就キ訊問ヲ爲スモ妨ケナシ

第二百二十六條 被告人ニハ先ツ左ノ事項ヲ訊問スヘシ

一 氏名年齢身分職業住所出生ノ地

二 前科ノ有無若シ前科アル時ハ其罪名刑名裁判言渡ヲ爲シタル廳名及ヒ其年月日

第二百二十七條 被告人ヲ訊問スルニハ穩和ヲ旨トシ且其年齢身分性質ニヨリ斟酌スヘシ

老幼男女貴賤貧富智愚等ヲ別タス一樣ノ訊問ヲ爲スヘカラス

又恐嚇詐言ヲ用フヘカラスト雖モ機ニ臨ミ諭戒詰責スルハ妨ケナシ

第二百二十八條 訊問ヲ爲スニハ平易ノ語ヲ用ヒ濫ニ法律ノ成語等ヲ用フヘカラス又簡明

ヲ旨トシ魁メテ疑似ニ涉ルコトヲ避クヘシ

第二百二十九條 被告人ニハ自由ニ發言セシメ其陳述ヲ妨礙スヘカラスト雖モ成ル可ク贅

言ヲ省キ餘事ニ涉ラサルコトニ注意セシムヘシ

第二百三十條 訊問ハ一事項毎ニ其端ヲ更メ成ルヘク同時ニ數事項ヲ訊問スヘカラス

數罪俱發ノ場合ニ於テハ一罪ノ訊問ヲ終リタル後他罪ニ及フヘシ但附帶ノ犯罪ニ付テハ

同時ニ訊問スルモ妨ケナシ

第二百三十一條 數人共犯ノ場合ニ於テハ成ルヘク各別ニ訊問シ其通謀ヲ防クヘシ且婦女

幼者及ヒ罪狀ノ輕キ者其他輒ク事實ヲ吐露スヘシト思料スル者ヲ最初ニ訊問スヘシ

第二百三十二條 證憑物件ハ時機ヲ計リ之ヲ被告人ニ示シ詳ニ其辯解ヲ爲サシムヘシ

第二百三十三條 訊問ハ密行スヘキモノナリト雖モ被告人ノ共犯ナルヲ又ハ其人違ナキヲ

其他事實ヲ發見スル爲メ必要トスル時ハ他ノ被告證人人其他ノ者ト對質セシムルヲ得

第二百三十四條 第九十三條第九十六條ハ被告人ノ訊問及ヒ對質ニ付テモ亦之ヲ適用スヘシ

第二百三十五條 被告人ノ舉動ハ事實發見ノ端緒ト爲ルコトアルニ因リ其言語氣色等ニ注意スヘシ

第二百三十六條 被告人白狀ヲ爲スト雖モ一概ニ眞實ト做スヘカラス必要ナル事項ハ充分ニ訊問ヲ爲スヘシ

第二百三十七條 訊問ニ付テハ即時ニ其調書ヲ作り問答ノ始末及ヒ被告人ノ舉動等遺漏ナク記載スヘシ

第九十七條第二項第三項ノ手續ハ被告人訊問調書ニ付テモ亦之ヲ適用スヘシ

第二百三十八條 被告人調書ノ謄本ヲ請求スル時ハ之ヲ下付スヘシ

第六編 巡查憲兵卒ノ職務

第二百三十九條 巡查憲兵卒ハ犯罪ノ搜查及ヒ假豫審ニ關シテハ司法警察官ノ附屬トス

第二百四十條 巡查憲兵卒ハ搜查及ヒ假豫審ニ付キ司法警察官ノ指揮アリタル時ハ何事ニ限ラス速ニ其指揮ニ從フヘシ

第二百四十一條 巡查憲兵卒ハ自ラ告訴發テ受ルコトヲ得スト雖モ司法警察官ニ差出スヘキ告訴狀告發狀ハ取次ヲ爲スコトヲ得

第二百四十二條 巡查憲兵卒ハ司法警察官ノ指揮アルニ非サレハ犯罪ノ探索ヲ爲スヘカス若シ犯罪ヲ發見シタル時ハ速ニ司法警察官ニ報告ス可シ

第二百四十三條 巡查憲兵卒ハ其身分ヲ明記シタル證票ヲ携帯スヘシ若シ其處分ヲ受クル者ノ請求アル時ハ之ヲ示スヘシ

第二百四十四條 巡查憲兵卒ハ其所屬ヲ異ニスト雖モ同一ノ職務ヲ行フモノナルニ因リ其請求アルカ又ハ必要ト思料スル場合ニ於テハ互ニ應援助力スヘシ

第二百四十五條 巡查憲兵卒ハ非番又ハ休暇中ト雖モ助力救護ノ請求アルカ又ハ現行犯准現行犯アルコトヲ認知シタル時ハ成ル可ク其職務ヲ行フヘシ

第二百四十六條 巡查憲兵卒ハ豫審判事檢事ノ指揮アル時ハ直ニ其事ニ從フヘシ本屬ニ非サル司法警察官ノ指揮ニ付テモ亦同シ

第二百四十七條 巡查憲兵卒復命又ハ報告等ヲ爲スニ付テハ見聞ノ事實ヲ虚飾セス其現況ヲ申立ツヘシ

第一章 搜查ニ關スル職務

第二百四十八條 巡查憲兵卒犯人及ヒ罪證ノ探索ヲ爲スニ付テハ司法警察官ノ指揮ニ從ヒ擅ニ指揮以外ノ事ヲ爲ス可カラス

第二百四十九條 探索ヲ爲スニ付テハ人ノ家宅内ニ進入スルヲ得ス但戸主又ハ管守者ノ承諾アル時ハ此限ニ在ラス

第二百五十條 探索ヲ爲スニ付テハ如何ナル場合ト雖モ物件差押ヲ爲スコトヲ得ス但所有者又ハ保管者ノ承諾ヲ得テ一時之ヲ領置スルハ格別ナリトス

第二百五十一條 探索ヲ爲スニ付テハ如何ナル場合ト雖モ被告人證人等ヲ呼出スヲ得ス

第二百五十二條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ現行犯准現行犯ニシテ被告人現場ニ在ル時ハ指揮又ハ令狀ナシト雖モ直ニ之ヲ逮捕ス可シ但其事件輕微ニシテ且被告人逃走ノ恐ナシト思料スル場合ニ於テハ之ヲ逮捕ス可カラス

第二百五十三條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルニハ人ノ家宅内ト雖モ進入スルヲ得但戸主又ハ管守者ノ承諾アルニ非サレハ家宅ヲ搜索スルヲ得ス

第二百五十四條 現場ヨリ被告人ヲ追跡スル場合ニ於テハ其追及シタル場所ノ如何ニ拘テス直ニ之ヲ逮捕スルヲ得

第二百五十五條 被告人ヲ逮捕スルニハ成ル可ク穩當ノ方法ヲ用フ可シ

被告人兇器ヲ持シテ抗拒シ他ニ防禦ノ術ナキ場合ニ非サレハ劔銃ヲ用フヘカラス又暴行若クハ逃走ノ恐アル場合ニ非サレハ捕繩又ハ手錠ヲ施スヘカラス

第二百五十六條 被告人多數ニシテ盡ク逮捕スルヲ能ハサル場合ニ於テハ其首犯ト思料ス

ル者ヲ逮捕スルコトニ注意スヘシ

第二百五十七條 巡査憲兵卒同時ニ同一ノ被告人ニ對シ逮捕ニ着手シタル場合ニ於テ其被告人常人ナル時ハ巡査ニ引渡シ軍人軍屬ナル時ハ憲兵卒ニ引渡スヘシ

第二百五十八條 被告人ヲ逮捕シタル時ハ速ニ司法警察官ニ引致スヘシ

被告人兇器贓物又ハ罪證ト爲ルヘキ物件ヲ携帯シタル時ハ速ニ之ヲ押收シテ司法警察官ニ送致スヘシ

第二百五十九條 被告人ヲ司法警察官ニ引致シタル時ハ其事由ヲ申告スヘシ被告人ヲ逮捕スルコト能ハサル場合ニ於テモ亦同シ

第二百六十條 常人ニ於テ現行犯准現行犯ノ被告人ヲ逮捕シ之ヲ引渡サントスル時ハ速ニ之ヲ受取リ前二條ニ從ヒ司法警察官ニ引致スヘシ
逮捕ノ原由又ハ逮捕ヲ爲シタル者ノ氏名住所分明ナラサル等ノ場合ニ於テハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ同行ヲ求ムルコトヲ得

第二百六十一條 罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪及ヒ違警罪ニ付テハ現行犯准現行犯ト雖モ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ被告人ノ氏名住所ヲ問ヒ證憑ヲ具シ當該官署ニ告發スヘシ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付キ被告人ヲ逮捕スルコトヲ必要トセサル時亦同シ

第二百六十二條 罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ現行犯准現行犯ノ被告人ト雖モ其氏名分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル時ハ當該官署ニ引致スルコトヲ得

第二百六十三條 現行犯ト非現行犯トヲ問ハス又被告人ヲ逮捕シタルト否トニ拘ラス當該官ノ臨檢ヲ必要トスル時ハ其場ノ原態ヲ保存シ見證人ノ散亂ヲ防キ速ニ司法警察官ニ報告スヘシ

原態ヲ保存スルコト能ハサル場合ニ於テ便宜處置スルハ防ケナシト雖モ必要ノ部分ヲ除クヘカラス

第二章 假豫審ニ關スル職務

司法警察訓則

第二百六十四條 巡查憲兵卒假豫密ニ付キ令狀執行ノ命ヲ受ケタル時ハ其令狀ニ記載シタル所ニ從ヒ速ニ之ヲ執行スヘシ

第二百六十五條 令狀ヲ執行スルニ付テハ被告人發見ノ爲メ其家宅若クハ他人ノ家宅ヲ搜索スルコトヲ得但被告人潜匿ノ徵憑充分ナル場合ノ外濫ニ搜索ヲ爲スヘカラス

第二百六十六條 家宅ヲ搜索スルニハ戸長ノ立會アルヲ要ス若シ其差支アル時ハ隣佑二名以上ヲ立會ハシムヘシ但戸主又ハ管守者ノ承諾ヲ得テ搜索ヲ爲ス時ハ別ニ立會人アルヲ要セス

官署内ニ於テ搜索ヲ爲ス時ハ其長官又ハ其指名シタル者ノ立會アルヲ要ス

第二百六十七條 家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス但晝間搜索ニ着手シタル時ハ夜間ニ及フモ妨ケナシ

戸主又ハ管守者ノ承諾アル時ハ何時ニ拘ラス搜索ヲ爲スコトヲ得

第二百六十八條 芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖モ其營業

ヲ爲ス時間旅籠屋貸坐敷ハ日出前日没後ニ拘ラス家宅ヲ搜索スルヲ得

第二百六十九條 被告人家宅内ニ潜匿シタリト思料スル場合ニ於テ即時ニ搜索ヲ爲スコトヲ得サル時ハ其逃亡ヲ防シ爲メ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二百七十條 家宅ヲ搜索スルニハ成ルヘク穩當ノ方法ヲ用フヘシ且被告人潜匿シタリト思料スヘキ場所ノ外搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第二百七十一條 家宅搜索ヲ爲シタル時ハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ラス搜索調書ヲ作ルヘシ

搜索調書ニハ搜索ヲ爲シタル年月日場所及ヒ時間其他搜索ニ關スル一切ノ手續ヲ記載スヘシ

第二百七十二條 搜索調書ヲ作ルニハ第五百五十六條ニ從ヒ且立會人ヲシテ署名捺印セシムヘシ若シ立會人署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記スヘシ

第二百七十三條 司法警察官ノ命ニ依リ令狀ヲ他ノ管轄地内ニ帶行スル時ハ其地ノ司法警察

察官ニ令狀ヲ示シテ執行ヲ求ムヘシ
若シ途中ニ於テ被告人ヲ撞見シタル時ハ其地ノ司法警察官ニ同行シテ執行ヲ求ルコトヲ
得

第二百七十四條 第二百五十五條第二百五十六條及ヒ第二百五十八條第二項ハ令狀ヲ執行
スルニ付テモ亦之ヲ適用スヘシ

第二百七十五條 令狀ヲ執行スルニハ被告人ニ正本ヲ示シ謄本ヲ下付シ被告人ヲシテ其二
通ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

又其執行ノ年月日時場所及ヒ手續ヲ其二通ニ記載シ署名捺印ス可シ若シ執行スルヲ能ハ
サル時ハ其事由ヲ正本ニ記載ス可シ

令狀ヲ執行シタル時ハ其正本ヲ司法警察官ニ還納ス可シ若シ執行スルヲ能ハサル時ハ正
本謄本ヲ還納ス可シ

第二百七十六條 司法警察官ノ命ニ依リ召喚狀呼出狀ヲ送達スルニハ其一通ヲ本人ニ渡ス

可シ本人ニ渡スヲ得サル時ハ其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ス可シ

同居ノ親屬雇人ニ渡スヲ得ス若シハ是等ノ者受取ルヲ肯セス又ハ白痴瘋癲幼年者日
雇人ナル等ノ場合ニ於テハ其地ノ戸長ニ渡ス可シ

召喚狀呼出狀ニハ受取人ヲシテ其二通ニ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルヲ能ハサ
ル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

又送達ノ年月日時場所及ヒ手續ヲ其二通ニ記載シ署名捺印ス可シ

召喚狀呼出狀ヲ送達シタル時ハ其一通ヲ司法警察官ニ還納ス可シ若シ送達スルヲ能ハサ
ル時ハ二通ヲ還納ス可シ

明治二十二年二月十三日出版御届
明治二十二年二月十日印刷

編輯人
兼發行人

諫早得淳

麴町區飯田町四丁目
二十番地

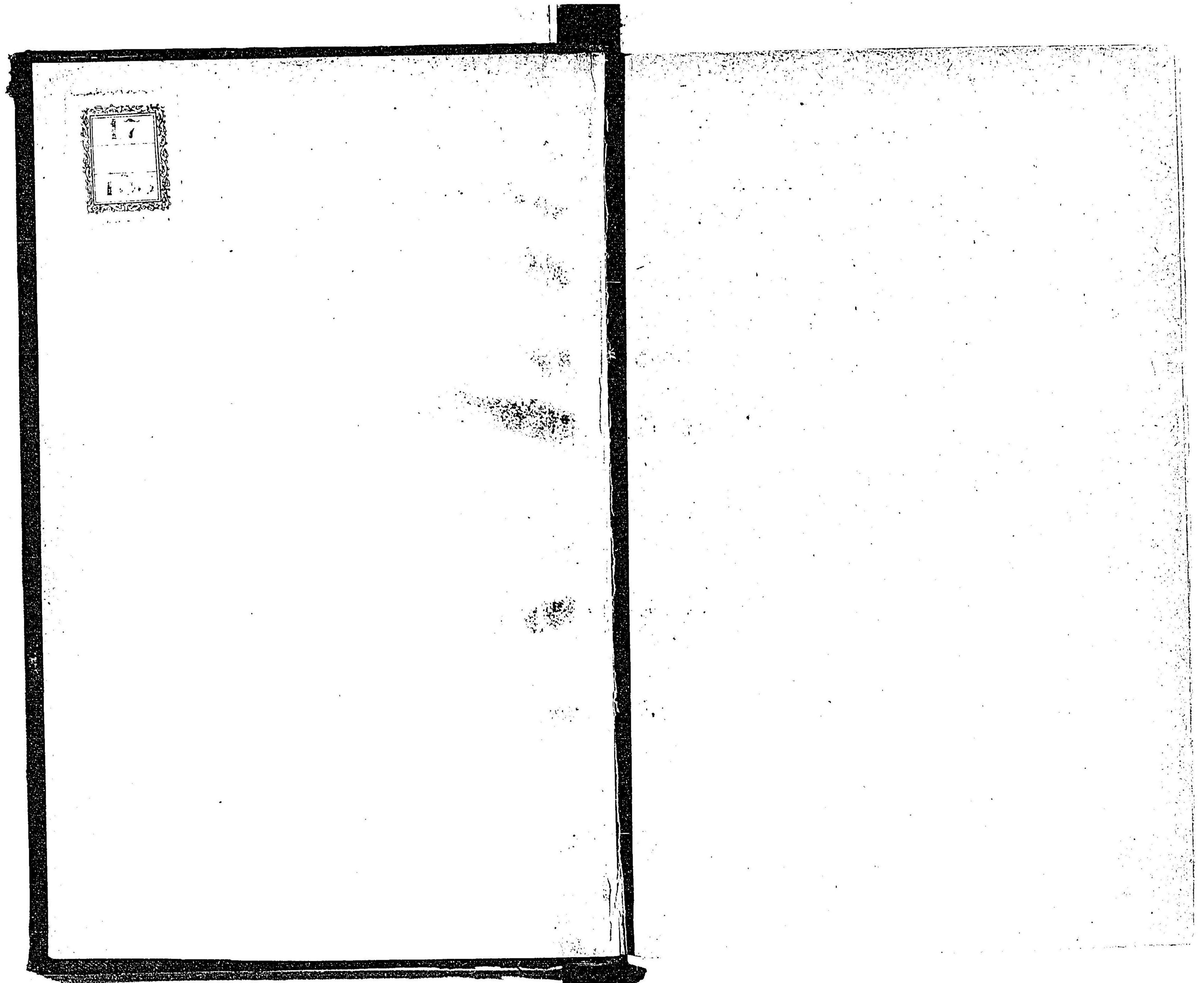
印刷人

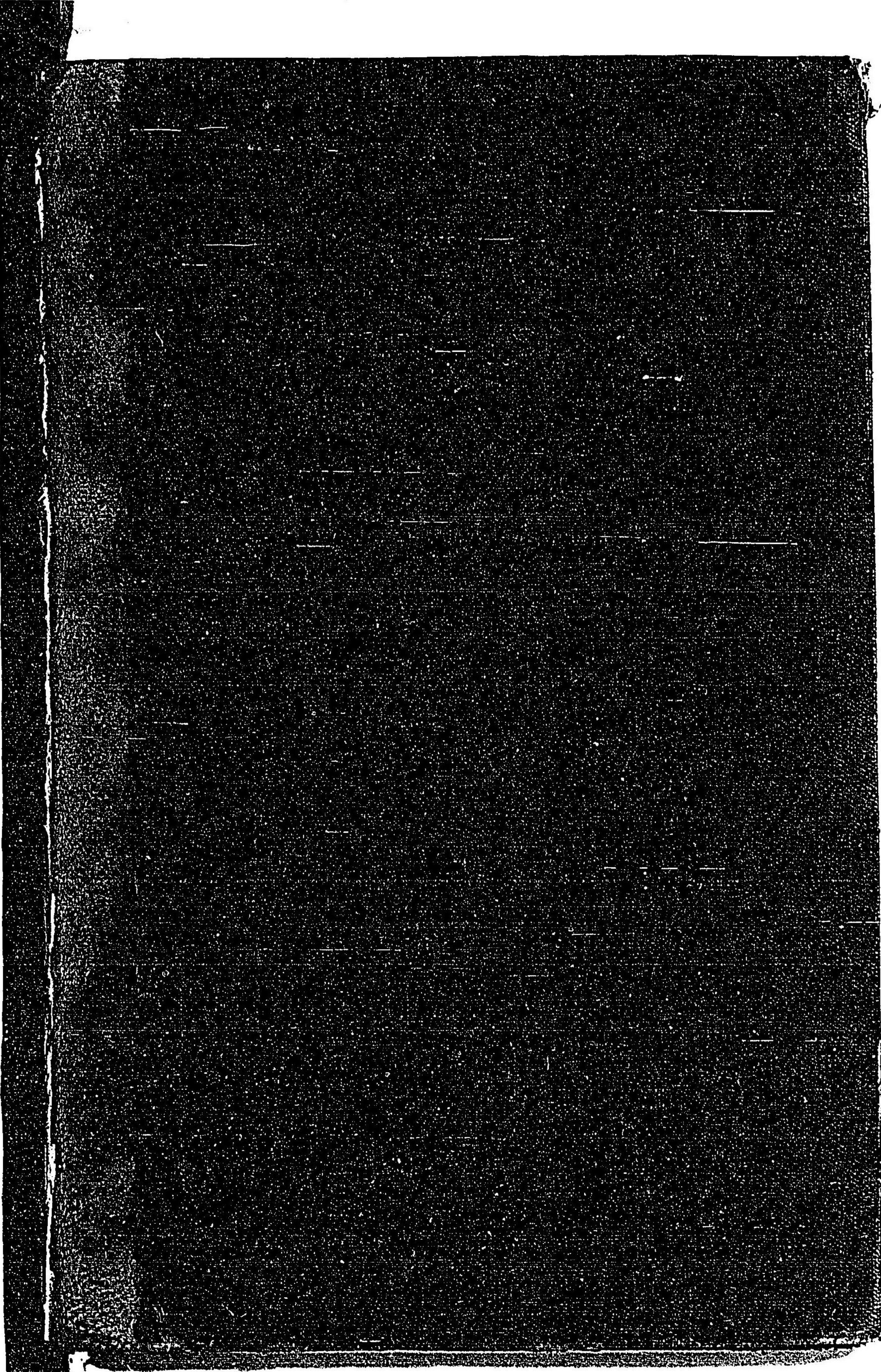
近

藤井 茂成

麴町區飯田町五丁目
二十六番地







17
153

禁電子式複写

031117-000-5

CZ-5-015

法規要集

諫早 得淳/編

M22

BBC-0927



